

品目	雹害対策（8月）	
大豆	<ul style="list-style-type: none"> ・葉に裂傷を生じたものは、病原菌侵入のおそれがあるので、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。 ・倒伏したものは、速やかに起こし、土寄せする。 ・ほ場の排水に努める。 ・出芽不良のものは播き直しする。 	
野菜	雨よけ栽培の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨により傷口から細菌類が侵入するおそれがあるため、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。 ・樹勢の低下が予想される場合は、液肥を葉面散布する。 ・ビニールの損傷箇所を早急に修理する。
	露地野菜の栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・茎葉の損傷により病害虫の発生が予想される場合は、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。 ・樹勢の低下が予想される場合は、液肥を葉面散布する。 ・スイートコーン、キュウリ、ナス等は蔓、茎の誘引を行い、樹勢回復に努める。 ・葉菜類は被害の程度、栽培ステージによっては、播き直しする。
果樹	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウスが被害を受けた場合は、早急に雨よけ対策を構じる。 ・傷口から病害が感染しやすいので、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。 ・損傷が大きい果実は摘果する。 ・カキでは、葉の被害状況に応じて、摘果を見直す。 ・ブドウでは、傷ついた果粒を摘粒する。 葉の被害が大きい場合は摘房して、果実の成熟が遅れないようにする。 ・モモでは、病害果を摘果して、園外へ除去する。 	
畜産	飼料作物の栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料用トウモロコシが生育初期に雹害を受けた場合は、茎葉の被害がひどくても生長点が健全であれば、その後の回復が期待できる。 しかし、全体の損傷が著しい場合は、相対熟度が100以下の極早生品種をやや密度に播種する。 ・収穫期が迫っている場合は、直ちに収穫してサイレージ調製を実施する。 ・牧草が茎だけ残した状態になっている場合は、早急に刈り取り、追肥をして再生草の成長を促す。